

令和7年度 向島東ブロック 学校創造プロジェクト

◆学校創造プロジェクトで大切にすること

- 小中一貫教育を推進するため、各校において進める取組の根幹を支えるものであること。
- 3校で「授業」をベースに様々な交流を実施する。
- 向島東中学校の3年生卒業時の姿を目指す子ども（生徒）像とし、そこに向かうつけたい力（資質能力）（令和7年度は対話力）各小学校・中学校において、主に「各校の授業」を相互に参観交流、各校の取組を尊重したうえで、建設的な意見交換を行う。
- 各部会について
上記の役割を担う「教務部会」「研究部会」のほかに「生徒指導部会」「総合育成支援部会」を加えた4つの部会をもってスタートし、向島東ブロックの学校創造プロジェクトに必要な取組を計画しながら、状況に合わせて小小・小中の連携をもって積極的に取り組めるようにしていく。

指導部会

各校の生徒指導の共有

（例：決まりと約束、児童会・生徒会活動、教育相談体制、発達支持的生徒指導について 等）

支総合育成支援部

各校の特別支援教育の共有

（例：日々の就学相談・家庭（保護者）のねがいの共有・義務教育を終えた後の進路先の共有
子どもの状況・個別の指導計画を含めた情報の共有）

教務部会

年間予定や行事予定の共有、各部・各学年で実施する新たな取組の共有

研究部会

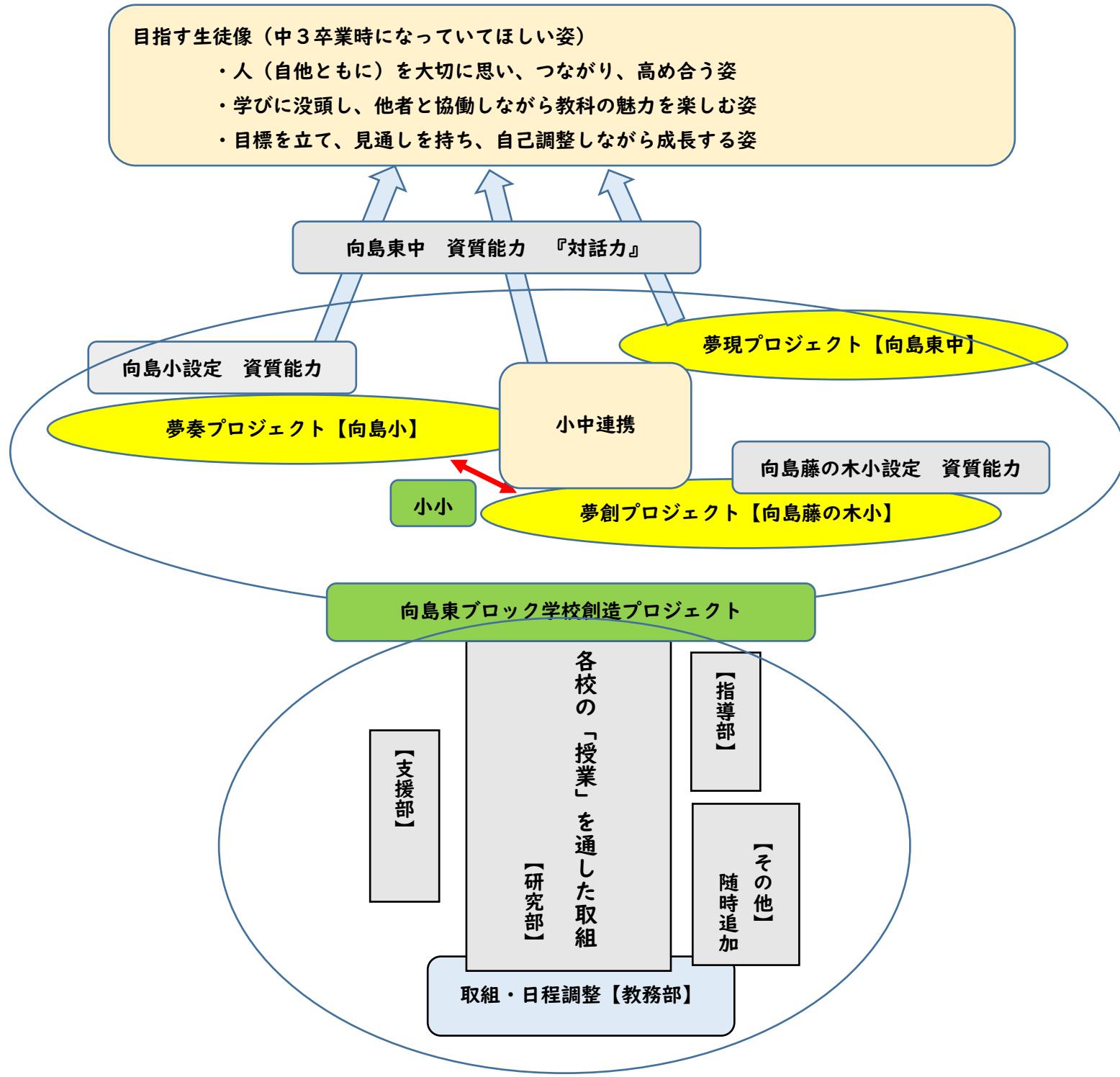
授業力向上に向けた様々な研修計画

小中合同授業研修の企画

※その他、各分野・分掌などの連携も積極的に行う。

（SC、養護、図書館司書 など）

◆向島東ブロック 学校創造プロジェクトイメージ



向島東ブロック学校創造プロジェクトイメージ

授業改革・児童生徒にかかわる情報共有を柱とした3校（向島小・向島藤の木小・向島東中）の連携に関するプロジェクトのこと。3校の教職員全員で取り組む。

*中3卒業時の目指す子ども像を具現化するために、向島小・向島藤の木小において「低中高学年における目指す児童像」を設定。

*向島小・向島藤の木小で設定する資質能力は、向島東中の「対話力」につながるものと設定する。

*設定した資質能力は「授業」のみならず、学校下での取組全てにおいて意識すべきものとする。

(取組例)

◆授業改革 A（小中連携編）

1 教科連携

英語 小中ブロック担当の英語教員が核となり、小学校5年生～中学3年生の英語の授業における連携
算数・数学
小中それぞれの授業参観・研究授業・指導法の協議

2 各校の研究授業参観

3 夏季小中合同研修会の実施

学校創造プロジェクトリーダーが中心となり企画運営

4 各校の研究発表

他の2校は午後授業カットで中学校参観

◆授業改革 B（小小連携編）

1 連携

学年交流会
総合的な学習を通した交流
同学年（ユニット）での授業づくり・参観

◆その他

1 向東祭（体育・文化・音楽の部参観）

2 小学校行事の参観 など